

全小家研会報



令和2年度2号 No.158
全国小学校家庭科教育研究会

令和3年2月1日発行 発行人 加園 正子
編集人 酒井 由江
発行所 練馬区関町北3-23-34 (〒177-0051)
練馬区立関町小学校内 ☎03-3929-1301

も く じ

- ・全国小学校家庭科教育研究会長挨拶…………… 1
- ・東京大会について…………… 2
- ・東京大会報告…………… 3
- ・各地区研究だより…………… 9
- ・シリーズ「授業」…………… 11
- ・令和3年度全国大会宮城大会案内…………… 12
- ・令和2年度年会費納入状況…………… 12



第57回 令和2年度の 東京大会誌上発表から

全国小学校家庭科教育研究会
会長 加園 正子

2020年夏に開催されるはずだった東京オリンピックが、新型コロナウイルスの感染拡大のため1年延期されました。全国大会 東京大会の開催についても誌上発表に切り替えたことは、前号でお知らせしたところです。

このような状況の中ではありますが、先の11月には、大田区立都南小学校、小池小学校、馬込小学校の三校では、密にならないよう授業公開の仕方を工夫し、児童の学習の様子をライブ映像で体育館等にて参観させていただきました。コロナ禍での新たな研究発表会の在り方を考える機会を得ることができました。

発表会には、文部科学省初等中等教育局教育課程調査官 丸山早苗先生、前横浜国立大学教授 工藤由貴子先生、帝京大学教授 勝田映子先生、東京学芸大学名誉教授 鳴海多恵子先生をはじめ、全国小学校家庭科教育研究会顧問の皆様ほか、多くの方にご臨席いただきましたことに感謝申し上げます。

各会場校の授業では、全国小学校家庭科教育研究会の大会主題「豊かな心と実践力を育み未来を拓く家庭科教育」を受け、研究主題を「よりよい生活を自ら創り出す子供の育成」とし、目指す児童像を掲げ、新学習指導要領で新たに示された小学校家庭科の目標を踏まえた①児童の系統的な学び支える指導計画②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善③学びの成果を次の学習へとつなげる評価④家庭や地域との連携・協働の4つの視点で授業づくりに取り組まれました。

各学校の特色を生かした題材の系統性と他教科等とを関連させたカリキュラム・マネジメントがなされ、日常の生活から問題を見いだし、課題を設定し、問題解決的な学習が展開されていました。また、児童が家族・地域の方、友達や下級生等との対話を通して、生き生きと主体的に学習に取り組んでいる姿が大変印象に残りました。さらに、新学習指導要領で示された「内容のまとめりごとの評価規準」から、題材ごとの評価規準・評価方法が示され、今後の研究の方向性を示唆する実践でした。

この東京大会誌上発表での成果が、次の宮城大会でさらに積み上げていかれますよう、関係の皆様方には重ねてお願い申し上げます。

東京大会での三校の授業の様子を映像化したダイジェスト版については、研究紀要冊子をお申し込みいただいた方に視聴していただける予定であります。

東京都公立小学校家庭科研究会 武井利依会長、飯島典子東京大会実行委員長を中心に、東京都の家庭科教育に関わる皆様が、コロナ禍の中ではありますが、知恵を出し合い、できることに全力を挙げて取り組んでくださったことに、心より感謝申し上げます。

お知らせとお願い

※ホームページの活用を
本会のホームページは、「全国小学校家庭科教育研究会」で開くことができます。全国大会・地区大会・出前授業等の情報が掲載されています。ご活用をお願いします。
<http://www.teachers-net.com/zenshokaken/>
[早寝早起き朝ごはん]
全国協議会国民運動のシンボルマーク使用許可を取得しています。研究冊子や文書につけてください。全国協議会 HP からダウンロードしてください。

第57回 全国小学校家庭科教育研究会全国大会報告

大会主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」
東京大会研究主題「よりよい生活を自ら創り出す子供の育成」



東京大会について

全国小学校家庭科教育研究会
全国大会東京大会実行委員長

飯島 典子

令和2年度、新学習指導要領全面実施の年度に、羽田空港を空の玄関とする「国際都市おおた」におきまして「第57回全国小学校家庭科教育研究会全国大会 東京大会」を開催できますことを大変光栄に思い、3年前より準備を進めてまいりました。しかし新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大会の開催を断念し、誌上発表と授業の映像を配信することによる発表に変更いたしました。

私たち東京都公立小学校家庭科研究会では、全国小学校家庭科教育研究会 研究主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」の大会主題を受け、研究主題を「よりよい生活を自ら創り出す子供の育成」と設定し、学習指導要領の実現を目指して、新しい内容を含めた7つの題材を通して研究を深めてまいりました。まず、学習の系統性を踏まえた題材配列を工夫し、他教科等との関連を考えて指導計画を立てることから始めました。次に題材を通して目指す資質・能力「何ができるようになるか」を明らかにし、児童自ら生活の中から課題を発見し、学習過程で解決できるよう指導計画を考え、主体的な学び、対話的な学び、深い学びになるよう研究をしてまいりました。研究発表でお伝えできないことから、研究紀要へは、研究の視点と実際の授業での様子が分かるように記述しました。また、本来なら、実際に授業の様子をご覧いただき、子供たちの姿から研究の成果をお示ししたいところでしたが、視点に沿った学習

過程を、映像でお伝えすることといたしました。研究紀要に掲載した各題材の指導案とともに、映像をご覧いただくとご理解いただけるのではないかと考えております。

このコロナ禍の自粛生活の中、家族と協力し、家族の一員として、工夫して家庭生活を過ごすことの大切さを実感しています。

昨年度3月からの臨時休業が続き、大切な学年のまとめができないまま新年度を迎えました。6月に学校教育が再開された際にも、対話ができない、ミシンの共有については、配慮をしなければならない、調理実習が思うようにできないなど、新しい学習形態の工夫をしていかなければならない現状となりました。また、研究会の開催においても制限があり、思うように研究ができない状況もありました。それでもこれまで研究してきた成果を無理なく、何とか発表したいと考え、研究に対する思いを一層深め、今回の発表となりました。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、家庭で過ごす時間が増え、子供たちは、普段の生活でこれまで見えなかった課題を発見し、当たり前の生活の大切さや少しの工夫で生活が豊かになることに気付きました。今こそ家族で協力し、工夫して生活する力を育成する家庭科教育が重要と考えました。

本研究大会の開催にあたり、一昨年度よりご指導いただきました前文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 筒井恭子先生、昨年度よりご指導いただきました文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 丸山早苗先生をはじめ、文部科学省関係各位、東京都教育委員会、大田区教育委員会ほか多くの皆様方よりいただきましたご指導、ご支援に心より感謝申し上げます。

東京の研究について

見付け、身に付け、未来につなごう

研究のねらい

自分の生活をよりよくするために、既習の知識及び技能を基に問題を見いだし、課題を設定し、解決する力を養い、主体的に実践する子供を育成するための指導の在り方を研究する。

目指す児童像

- 日常生活に必要な基礎的な知識及び技能を身に付けている子
- 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、工夫し解決する子
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと実践する子

家庭科で育成を目指す資質・能力「何ができるようになるか」は、教科の目標に「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って示されている。また、目標の柱書には、これらを「生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」として示すとともに、質の高い学びを実現するために、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせることについて示している。本研究では、この新学習指導要領に示された三つの資質・能力に照らして、目指す児童像を示した。

家庭科の学習において、児童一人一人が日頃から自分の生活の在り方を見つめ直すことで家庭生活における課題を見付け、その解決方法を自ら考え、改善に向けた実践に取り組むことができるよう研究を進めてきた。生涯にわたって家族や地域の人々と関わり合いながら、よりよい生活に向けて改善できる児童を育てたいと考える。本研究では、「見付け、身に付け、未来につなごう」を合言葉に、育てたい力を明確化した研究を行った。

研究の視点

〈視点 1〉

児童の系統的な学びを支える指導計画
(カリキュラム・マネジメント)

〈視点 2〉

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

〈視点 3〉

学びの成果を次の学習へとつなげる評価

〈視点 4〉

家庭や地域との連携・協働

以上のように4つの視点との関わりをもたせ、7つの題材において、研究をした。

各題材の実践事例について紹介します。詳しくは、研究紀要と2月から3月26日まで配信予定の授業映像にて発表いたします。

第5学年 「かかわり大作戦」

内容 A (3)

実施日時 令和2年11月27日(金)

授業者 大田区立都南小学校 関口 侑羽

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 丸山 早苗 先生

授業の概要

児童が社会の変化に対応し、地域の異なる世代の人々との関わりを大切にして、よりよい生活を創り出していく能力の基礎や実践的態度の育成を目指し、本題材を設定した。本題材においては、地域で共に生活している幼児や低学年の児童など、異なる世代の人々との関わりについて、課題をもって、地域の人々との協力の大切さを理解し、地域の人々との関わりに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、低学年の児童とのよりよい関わりを考え、工夫ができるようにすることをねらいとしている。

協議会より

- 関わり方に絞り込んだ授業になっていた。5年生は、1年生にジェスチャーをしながら掃除のやり方を見せるなどの具体的な関わり方の工夫を考えていた。
- 1年生に優しく話すという関わり方の工夫からは、5年生が1年生の発達段階や気持ちを考えている深い学びが見られた。



成果と課題

- 他題材や特別活動等との関連を図った指導計画によって、児童が学習した内容を生かし、2学年間にわたって段階的に地域の人々と関わるきっかけとなり、教育活動全体を通して、系統的に学習を進めていくことができた。
- 幼児や低学年の児童との関わり方に関する課題発見から、学習したことを生かした関わりの実践活動に向けて、課題（問題）解決のために、児童が低学年の児童の様子を見に行くなど主体的に課題解決に取り組んだり、グループでの対話を通して低学年の児童と関わるための解決方法を探り、計画を立てたりすることができた。さらに実践活動を振り返って評価し、改善点を見付け、協力の大切さを実感し、今後の活動に生かす問題解決的な学習活動を充実させることができた。
- 学習したことを実践していく姿勢を継続できるように、小中学校の指導内容の系統性や家庭や地域との連携・協働を重視して、教育活動全体を見通し、指導計画をさらに工夫していく必要がある。

第5学年 「生活を支えるお金と物」 内容 C (1) (2)

実施日時 令和2年12月9日(水)

授業者 大田区立小池小学校 高岡 奈津子

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 丸山 早苗 先生

授業の概要

児童が消費者としての自覚をもち、適切な消費行動をとる必要があることに気づき、持続可能な社会の構築等の視点から主体的に生活をよりよく工夫する資質・能力の基礎を育成することを目指し、本題材を設定した。

本題材では、児童が「自分の家のみそ汁の材料を無駄なく買う」という課題の解決に向けて、物やお金の使い方を見直し、買物の仕組みや環境を考えた買い方を知り、商品の選び方・買い方を身に付け、その後、みそ汁の材料の購入に向けて計画・実践（買物）・振り返り・改善を行い、課題の解決を行った。

授業を公開した第3時では、買物の仕組みとして売買契約の基礎を取り上げた。書店で予約した本を、



自分の都合でキャンセルすることが可能かという問いに対して児童に意見交流させた後、「消費者の申し出と売り手の承諾により売買契約が成立する」ことを指導した。これにより、自分たちが行っている買物も売買契約であり、消費者の一員として日頃から責任をもった消費行動が必要である点に気付かせた。

協議会より

- 各時間のねらいが、題材で育成を目指す資質・能力を踏まえて適切に設定されていた。
- 「消費生活・環境」について、校種・学年・教科を横断した関連性が吟味された上で授業が組み立てられ、子供の学びがどのようにつながるのか明確に示されていた。

- 新学習指導要領の新設項目「売買契約の基礎」について、小学校の児童の実態に合わせた具体的な指導方法の提案だった。
- 1つの事例を基にしなから、児童が共通の話題で対話ができる教材（本の予約に関するプレゼンテーション）が提案されていた。

成果と課題

- 買物の仕組みの学習では、児童が想起しやすい買物場面を複数設定することで、児童が各々で考えをもって対話することができ、売買契約の基礎の習得につなげることができた。
- 日常生活での買物実践の場面でも、消費者の一員として売買契約の基礎の学習を意識しながら購入できるように、引き続き支援をしていく。



第5学年 「めざせ！いきいき食生活」 内容 B (1) (3)

実施日時 令和2年12月18日(金)
 授業者 大田区立道塚小学校 浅川 大毅
 講師 全国小学校家庭科教育研究会
 元会長 藤原 孝子 先生

授業の概要

児童が日常の食生活における健康に関する知識を身に付けることや適切な意思決定や行動選択を行い主体的に健康・安全で豊かな食生活を実践することのできる資質・能力の基礎を育成することを目指し、本題材を設定した。本題材においては、課題をもって、健康な体を保つために必要な栄養素の種類とその主な働きや栄養の特徴ごとの三つのグループ分けに関する基礎的・基本的な知識を身に付ける。さらに、献立を構成する主食、主菜、副菜が分かり、いろいろな料理や食品を組み合わせるとる必要性を理

解することができることをねらいとしている。

協議会より

- 児童が食品の栄養的特徴を考え分類する活動では、根拠をもって種類を考えられるようにすることで汎用性のある知識となる。じゃがいものように種類の判別が分かりにくい場合は、図鑑や他教科の教科書などの資料を提示して、説明することも必要である。
- 栄養のバランスをとるということ＝五つの栄養素がとれるということ。事実に知識(知っている状態)を概念的な知識(分かった状態)に深め、生きて働く知識から技能を向上させていく。そのためには、学習内容の構造を把握しておくことが大切である。知識を相互に関連付けてより深く理解させることで、他の学習や生活の場面で活用できるようにしたい。



成果と課題

- 児童用タブレット端末を使用することにより、児童の意欲が高まり、主体的な活動につながった。ペアで話し合いながら考えて操作することで、対話を通して互いの考えを比較したり明確にしたりすることができた。
- 給食の献立に使われている身近な食品を視覚的に捉え、操作しながら分類させることで、活用できる知識として定着させるのに有効であった。



- 学習したことを実践していく姿勢を継続できるように、学校教育活動全体を通して指導していく。

第6学年 「わたしと家族の団らん大作戦」
 ～わたしだからできること～
 内容 A (4)

実施日時 令和2年11月27日(金)
 授業者 大田区立都南小学校 神前 珠美
 講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課
 教科調査官 丸山 早苗 先生

授業の概要

本題材では、A(3)「家族や地域の人々との関わり」のA(ア)およびイの学習を基礎とし、「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」で学習した内容との関連を図りながら、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、計画を立てて実践する。その結果を評価・改善し、考えたことを表現するなどの学習を通して、問題を解決する力と生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うことをねらいとしている。家族と過ごす時間をよりよくするため、家族への事前インタビューを活用しながら問題を見いだして課題を設定し、友達と意見を交流することでよりよい計画を工夫していく。

協議会より

- 「問題を見いだして課題を設定する」という活動のとらえ方について、「家族と過ごす時間を生み出すため、家事を分担したり効率化したりする方法を考える」「家族と過ごす時間をより楽しく和やかにする方法を考える」など児童によって解釈に違いがないよう、学習内容とねらいを的確に押さえる。
- 家族は「家族との会話」を、児童は「楽しく過ごすためにやること」をイメージしている場合が多く、両者の思いをどうすり合わせていくかを今後の課題とする。
- 生活経験や道徳の授業などから「家族は協力して仲良く過ごすことが良い」という意識をもっている児童が多い。その概念に切り込み、



家族と過ごす時間をどう生み出し、どう過ごすのかを科学的に考える方法を検討する。

成果と課題

- 提案性の高い授業実践であり、今後この授業を基盤に様々な実践へとつなげていく。
- 対話により児童の学びが深まった。友達の話を聞き、要点をとらえ、質問やアドバイスをしてさらに深めるという日頃の学習規律や対話活動への指導が家庭科の授業でも生かされた。
- 一連の学習活動の中で、児童が見通しをしかりともてるようなめあてやねらいの提示が必要である。
- 家族への事前インタビューを生かしつつ、思いに違いがみられた場合は、どうすり合わせていくか検討が必要である。



第6学年 「わが家の年末年始大作戦」
 内容 A (4)

実施日時 令和2年12月9日(水)
 授業者 大田区立小池小学校 大平 彩佳
 講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課
 教科調査官 丸山 早苗 先生

授業の概要

家庭科の学習を生かし、家族の一員として、家庭の仕事に主体的に取り組んでいくことができる児童を育成したいと考え、本題材を設定した。本題材では、お正月を迎える際に各家庭の仕事に対する思いをインタビューし、自分にできることを探し、課題を設定する。その際、「B衣食住の生活」、「C消費生活・環境」で学習したことを関連付けて課題を考え、工夫して計画を立てる。

家族の一員として、家庭の仕事に積極的に取り組み、家族と協力してよりよい生活を送る



ことの必要性を感じ、実践する態度を育てることをねらいとしている。

協議会より

- 普段の生活の中にある当たり前のことであるがゆえ課題設定が難しい。特に児童が思春期の時期に入っているため、どうすればいいのか、どのように工夫すればいいのかについて分かってはいるが、それを素直に表すことが難しい。その中で、どのように児童に問題意識を持たせて課題を設定させるのが内容Aの難しいところである。
- 児童に年末年始の家族の様子と自分の様子を比較させ、気付いたことを発表させることで、客観的に児童が課題に気付けるようにしていた。当たり前のことや分かっていることであったとしても、「まずは生活に正対してみる」ことが必要であったと、本時の児童の発言からいうことができる。
- 自分の生活の中でただやるのではなく、家族と協力・分担しながら自分の仕事に取り組むタイムマネジメントができていた。

成果と課題

- 他題材や他教科等との関連を図った指導計画によって、児童がこれまでに学習した内容を生かし、2学年間のまとめとしての位置づけで学習を進めていくことができた。
- 交流の際に、互いの計画を見合い、よい点や改善点、疑問点などを付せんを書くことで、話し合いに活用でき、伝えることが苦手な児童も交流することができていた。
- 「お手伝い」ではなく「家庭での自分の仕事」として、児童に認識させることや学習したことを実践していく姿勢を継続できるように、家庭との連携・協働や指導計画のさらなる工夫をしていくことが必要である。



第6学年 「こんだてを工夫して」 ～家族が喜ぶ夕食のこんだてを考えよう～ 内容 B (1) (3)

実施日時 令和2年12月9日(水)

授業者 大田区立小池小学校 小野寺 愛

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 丸山 早苗 先生

授業の概要

児童が日常の食生活における健康に関する知識を身に付けることや適切な意思決定や行動選択を行い主体的に健康・安全で豊かな食生活を実践することのできる資質・能力の基礎を育成することを目指し、本題材を設定した。本題材においては、主食、汁物、主菜、副菜の組み合わせにより、栄養のバランスがよくなることを確かめ、組み合わせを工夫しながら1食分の献立を作成することができることをねらいとしている。また、家族が喜ぶ1食分の献立を立てることで、家族の健康を考え、家族の状況に配慮しながら献立を作成すること、栄養素の種類と働きの知識の定着を図ることもねらいの一つである。



協議会より

- 題材の指導と評価の計画には、学習過程に沿って、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価が示されている。評価場面を明確に位置付けた指導を計画している。
- 学習シートは、始めの気付きから最後まで一覧で見ることができ、児童が見通しをもったり、思考の変化を確認したりすることができ、学びの深まりを実感しながら学習を進めることができる。
- 児童の実態に合わせて教材研究がされている。市販のものは情報量が多いが、「おかずカード」は、児童が考えられるレベルで設定され、教材開発されていた。

成果と課題

- 主菜や副菜の写真を撮影して教材化し、児童がタブレット端末を活用して、選んだおかずを容易に入れ替えたり、食品を足したりして献立のイメージをもちながら、主体的に多様な工夫を考えるができた。
- 学習シートを工夫し、思考の過程を可視化することで、児童の考えや変容を見取ることができた。また、授業の振り返りで、分かったことを記述することで、成長を実感させることができた。

- 個の学習とグループ学習の利点を精査し、学習形態をさらに工夫していく必要がある。



第6学年 「みんなで地域を快適に」 内容 A (3)、B (6)

実施日時 令和2年12月7日(月)
授業者 大田区立久原小学校 関 佑李果
講師 全国小学校家庭科教育研究会
元会長 藤原 孝子 先生
横浜国立大学
前教授 工藤 由貴子 先生
帝京大学
教授 勝田 映子 先生

実施日時 令和2年12月15日(火)
授業者 大田区立馬込小学校 佐々木 裕子
講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 丸山 早苗 先生

授業の概要

現在の社会においては、児童と地域で共に生活している人々との関わりは薄く、地域の人々など多くの人に支えられて生活していると感じにくい現状にある。自分の生活の快適



さを優先し、地域の人々に迷惑をかけていることの自覚に乏しい状況も見られる。そこで、家族や地域の人々との関わりを大切にして、よりよい生活を創り出していく能力の基礎や実践的態度を育成したいと考え、本題材を設定した。本題材においては、地域の人々(高齢者)との関わりについて、課題をもち、地域の人々との協力の大切さを理解するとともに、地域の人々(高齢者)との関わりに関する基礎的・基本的な知識を身に付ける。さらに、よりよい関わりを考え、工夫することができるようにすることをねらいとしている。また、B(6)「快適な住まい方」のA(ア)と関連させて、地域の音環境を考えることを通して、地域の人々との関わりに関する深い学びを目指している。

協議会より

- 教科横断的なカリキュラム・マネジメントについて、特別活動(キャリア教育)で自分の生活をよりよくする内容が授業の内容に合っていた。
- 理科との関連により科学的に思考させることも大切である。分かっていることがあるからこそ、工夫できる。
- 音が聞こえることが前提であったが、地域には音が聞こえない人もいることを想定することも重要。生活音と地域との関わりを広く捉えて考えていく必要がある。

成果と課題

- 自分の生活から問題を見だし、生活の営みに係る見方・考え方の可視化をしたことにより、自然な流れで課題を設定することができた。
- 目指す地域を設定したことで、地域の人々との協力が重要であることを捉えることができた。
- 目指す地域を設定する際、「将来のため」ではなく、「今をもっとよりよくする」と、考えさせるスパンを短くしてもよかった。



各地区研究だより

〈東海・北陸地区〉

第6回東海・北陸地区小学校家庭科教育研究大会静岡大会を終えて

静岡県小学校家庭科教育研究会

会長 吉野 和美

令和2年12月2日(水)、コロナ禍の中、規模を縮小して第6回東海・北陸地区小学校家庭科教育研究大会静岡大会を開催いたしました。

研究主題を「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 ～学びをつなぎ、生活の中で実践する力の育成を目指す～」とし、3つの視点に沿って研究を進めてまいりました。

視点1は、「学びのつながりを意識した指導計画の工夫」です。その手立てとして、学びをつなぐ題材構想図を作成しました。また、家庭や地域の企業や事業所などとのつながりを重視しました。視点2は、「体験的な学びをもとにした問題解決的な学習の充実」です。体験的な学びから新たな課題を見つけたり、予想していたことを確信へと近づけたりする授業展開を実践しました。視点3は、「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」です。学習の見通しと振り返りの設定、対話する場の設定、子どもが考える場面と教師が教える場面の組み立てを意識した授業づくりに取り組みました。

研究大会当日の5年生「暖かく快適に過ごす着方」では、「体験を伴った実験を行いたい。」という授業者の願いから、軍手を衣服に見立て、ドライヤーを用いた実験を行いました。子どもは口々に「なぜ暖かいのか。」「風をさえぎっている。」「暖かさを閉じ込めている。」などと発言し、生活体験と結び付けながら暖かい着方についての理解を深めました。また、6年生「Let'sソーイング～作ってみよう！使ってみよう！～」では、目的にあった便利な袋作りを問題解決的に取り上げ、課題解決のために情報を収集し、活用する授業となりました。5年生・6年生共に、子どもの深い学びの姿を見ることができました。

全体会では、静岡大学学術院の小清水貴子様から指導講評、文部科学省教科調査官の丸山早苗様から「新学習指導要領における小学校家庭科の学習評価」をご講演いただきました。明らかになった成果と課題をもとに、今後も家庭科教育の発展のために取り組んでまいります。

〈関東甲信越地区〉

第36回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会茨城大会を終えて

茨城県家庭、技術・家庭教育研究部

小学校部長

茨城大会実行委員長 米川 順子

第36回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会茨城大会は、令和2年10月7日(水)に、陶芸家板谷波山のふるさと 筑西市立下館小学校を会場に行われる予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により紙上のみでの発表となってしまいましたことは、関係者一同、残念でなりません。

本大会では大会主題を受け、研究主題を「生活をよりよくしようと自ら工夫する子の育成」とし、3つの視点から研究と実践を重ねてまいりました。

「視点1 指導計画の工夫」では「実践力を高める年間指導計画」や「つながりを重視した題材指導計画」の作成を、「視点2 学習指導の工夫」では「問題解決的な学習」「実践的・体験的な学習」「ICT活用」「個に応じた指導」の充実に、「視点3 評価の工夫」では「身に付いた資質・能力を見取る」「自己の成長を実感し、実践意欲を高める」ための評価の工夫を図り、県内5地区で実践研究を行いました。

新学習指導要領全面実施の本年、茨城県では内容Aに重点を置き、内容B・CもAとの関わりを考慮して各題材を構成しました。本大会で公開予定だった第5学年「冬でも安心！我が家のあったかエコライフ」、第6学年「生活に生かそう アイデアソーイング」は、どちらも「家族」をベースに展開する授業です。家族や家庭生活が多様化している昨今、自分の生活を自分の力でよりよいものにしていくことは、子供たちに「生きる力」を育むことであると考え、研究を進めてきました。

今後は、本大会での成果と課題を整理し、茨城県及び関東甲信越地区の家庭科教育をさらに推進していきたいと思っております。これまで丁寧にご指導いただきました文部科学省教科調査官丸山早苗様、茨城県義務教育課指導主事小飼美保様、そして温かいご支援をいただきました茨城県教育委員会様、筑西市教育委員会様をはじめ、多くの皆様に心より感謝申し上げます。

〈中国・四国地区〉

第18回(中国・四国)地区小学校家庭科教育研究大会 誌上発表を終えて

広島県広島市小学校家庭科教育研究会
会長 宅見 政子

令和2年11月20日(金)に第18回中国四国小学校家庭科教育研究大会広島大会を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染予防のため、紙面での開催といたしました。

広島市では、大会主題を受け、「よりよい生活を営むために工夫する児童の育成～みつけよう やってみよう つなげよう～」と、研究主題を設定しました。会場校となる祇園小学校では、この研究主題の基、「見つけよう：自分の身の回りの事象等から疑問や問題を見出し、それらを共有しながら解決すべき課題を設定すること」「やってみよう：課題解決の過程で、対話や協働、体験的な活動等を通して、試行錯誤を繰り返しながら、思考・判断・表現していくこと」「つなげよう：自分自身の生活や他者、社会、自然、環境とのつながりの中で活用することを通して、自分自身や学んだことの価値を感じ、よりよい社会や人生を創ろうとする力をつけること」と掲げ、研究してまいりました。

5年生の「食べて元気に」では、家庭でのみそ汁作りを実践し続けることができる子どもを目指し、みそ汁についての疑問を解決したり一人一実習をしたりしてきました。コロナの関係で今年度は実習が思うようにできませんでした。家庭との連携を強めた授業づくりを工夫してきました。6年生の「共に生きる生活」では、総合的な学習で地域に生きる人たちの生き方を学び、家庭科とつなげました。今までの家庭科で身に付けた知識や技能を生かしながら自分たちから地域にかかわろうとする主体的な学びになるよう授業づくりをしました。そして、家庭科につながる教科として、低学年は生活科、中学年は総合的な学習で家庭や地域を取り上げ、学校全体でカリキュラム・マネジメントをして取り組みました。合わせて掲載しています。また、香川県と広島県世羅郡、府中町の貴重な研究についても提案をさせていただいています。

誌上発表とはなりましたが、今大会に向けて広島大学の伊藤教授をはじめ多くの方々にご指導いただきましたことを心より感謝申し上げます。今後の取り組みに生かしていくと共に、中四国の家庭科教育の充実に向け、さらに研究を深めていきたいと思っております。

〈九州地区〉

第50回九州地区小学校家庭科教育研究大会大分大会 誌上発表にかえて

大分県小学校家庭科教育研究会
会長 原田 悦子

令和2年10月30日(金)に予定しておりました第50回九州地区小学校家庭科教育研究大会は、コロナ禍の諸事情を鑑み、九州各県の家庭科教育研究会の皆様と協議の上、大会を中止し、誌上発表とすることといたしました。大分県でこれまで積み上げてきた家庭科教育の実践を授業公開として発表し、皆様からのご示唆をいただき、九州各県の情報交換や家庭科教育発展のための議論の場となることとかなわなくなり、残念でなりませんでした。

本大会では、全国小学校家庭科教育研究大会の大会主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」を受け、研究主題を「身近な人と関わりながら、よりよい生活を願い実践する子どもをめざして」と設定しました。授業研究の視点を「1. 人とのかかわりを生かす題材プラン・学習過程のあり方」「2. 子どもの実践力を高めるための学習指導の工夫」「3. 学びの連続性を意識した評価の内容と方法」3点に絞り、研究を進めてまいりました。特に、会場予定校の大分市立大道小学校の令和元年度から2年間の取組について、研究紀要にまとめ、九州各県の皆様に広くお伝えすることといたしました。

大会に向けての取組で得た成果と課題を整理し、今後も九州地区の家庭科教育充実のため、取り組んでまいります。

つなげよう 子ども・家庭・地域・社会

～学びを深め、自らの生活を改善する子どもの育成に向けた授業の構築～

大阪府公立小学校家庭科教育研究会

I 研究主題設定の理由

新学習指導要領のもと、家庭科の学習の中で、子供たちが、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育むために、「何ができるようになるのか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」を明確にし、授業の研究実践を積み上げる。

II めざす子供像

持続可能な未来のよりよい生活を主体的に創り出す「生きる力」を培うことをめざす。

III 授業実践

1. 題材名 第6学年（衣食住の生活「住」）

寒い季節を快適に

「素敵☆快適・健康エコライフ」～冬～

2. 題材の目標

- (1) 季節の変化に合わせた生活の大切さがわかり、冬を快適に過ごすための着方・住まい方について理解することができる。

【知識・技能】

- (2) 環境に配慮して冬を快適に過ごすために生活を工夫することができる。

【思考・判断・表現】

- (3) 季節に合わせた生活の大切さや住まい方について関心をもち、主体的に考えより快適に過ごそうとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

3. 指導にあたって

家庭科の学習で学んだことを家庭生活のなかで実践できる子供の育成をねらいとする。

視点1 めあて（目標）の明確化

日常の住まい方に関心をもち、季節に合った快適な住まい方をするために生活を見直し課題を見つけ解決方法を工夫しながら自分の

生活に生かそうとする力を育てる。

視点2 主体的・対話的でつながり深め合う授業

調べ学習・聞き取り学習や体験活動等を通して、昔からの生活の知恵や工夫を知り、自然を生かし環境に配慮した生活の仕方や健康や安全を意識し、快適な生活に向けて実践計画を立てさせる。

視点3 家庭科での学びを生活に生かす工夫

各家庭の住居環境や家庭事情を考慮したうえで、自分の家の課題を捉え、それぞれが考える自分なりの工夫を交流したうえで、健康で省エネ、快適な生活に向けて実践計画を立てさせる。

4. 学習の流れ

- (1) 寒い季節の過ごし方を考えよう
 - * 季節の変化に合わせた生活について考える
 - * 衣・食・住・運動・暖房具など生活経験から考えるあたたかい着方を工夫しよう
- (2) あたたかい着方を工夫しよう
 - * 実験を通して、実感をもつ。
 - 布の保温性・通気性・伸縮性・重ね着・着方
- (3) 学校のあたたかさや明るさを調べよう
 - * 体感する快適さと測定した温度や明るさの数値が関係していることに気づく
 - * 環境に配慮した暖房機器の効果的な使い方を理解する
- (4) 家庭実践の計画を立てよう
 - * 冬のおもてなし計画を立てる
- (5) 実践計画報告会をしよう
 - * 自分の生活と身近な環境との関わりに関心をもち、改善点を話し合う。

5. おわりに

新型コロナウイルス感染症の影響で指導計画の大幅に見直しを行ったが、安全で健康な生活を見直す絶好の機会と捉え、授業を組み立てた。

令和3年度全国大会 宮城大会

家庭科教育の一層の充実・発展のため、杜の都仙台で「むすび丸」とともに皆様のお越しをお待ちしています。



第58回 全国小学校家庭科教育研究会

1 大会主題

『豊かな心と実践力を育み、
未来を拓く家庭科教育』

2 研究主題

「学びを生かし、生活をよりよくしようと工夫する子供の育成」

3 期 日 令和3年10月22日（金）

4 日程・会場

【10月21日（木）】

※今回、レセプションは見送りとさせていただきます。

会場 ホテルメトロポリタン仙台

15:00

18:00

全国理事会	記念講演 「たくましく生きよ～東日本大震災の経験から～」 元雄勝町立雄勝中学校長 佐藤 淳一 氏
-------	--

【10月22日（金）】

※新型コロナウイルスの感染状況により変更する場合があります。

第一会場 仙台市立愛子小学校

8:30 9:00

11:30

受付	研究授業・分科会	移動
----	----------	----

第二会場 仙台市立錦ヶ丘小学校

8:30 9:00

11:30

受付	研究授業・分科会	移動
----	----------	----

全体会場 トークネットホール仙台（仙台市民会館）

13:15

16:50

全 体 会				
昼食	開会 行事	調査報告・ 全国地区研究発表	全体指導	閉会 行事

5 全体指導

文部科学省初等中等教育局

教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター

研究開発部 教育課程調査官

丸山 早苗 氏

6 参加費 5,000円

7 問い合わせ先

【宮城大会事務局】

仙台市立鶴谷小学校 校長 鳩原 淳子

〒983-0824 宮城県仙台市宮城野区鶴ヶ谷3丁目17番

TEL 022-251-8391

FAX 022-252-3526

令和2年度 会費納入状況

番号	地区	人数	金額
1	北海道	30	30,000
2	青森	30	30,000
3	岩手	5	5,000
4	宮城	30	30,000
5	秋田	41	41,000
6	山形	24	24,000
7	福島	2	2,000
8	茨城	54	54,000
9	栃木	18	18,000
10	群馬	14	14,000
11	埼玉	8	8,000
12	千葉	115	115,000
13-1	神奈川・相模原市	3	3,000
13-2	川崎市	19	19,000
13-3	横須賀市	11	11,000
14	横浜	19	19,000
15	山梨	10	10,000
16	長野	20	20,000
17	新潟	45	45,000
18	東京都	150	150,000
	東京（役員）	11	11,000
19	富山	13	13,000
20	石川	13	13,000
21	福井	35	35,000
22-1	静岡県	13	13,000
22-2	浜松市	5	5,000
23	愛知	45	45,000
24	名古屋	25	25,000
25	岐阜	18	18,000
26	三重	8	8,000
27	滋賀	16	16,000
28	京都府	7	7,000
29	京都市	30	30,000
30	大阪府	6	6,000
31	大阪府	41	41,000
32	兵庫	37	37,000
33	神戸	10	10,000
34	奈良	5	5,000
35	和歌山	8	8,000
36	鳥取	8	8,000
37	島根	13	13,000
38	岡山	26	26,000
39	広島	24	24,000
40	山口	15	15,000
41	徳島	60	60,000
42	香川	30	30,000
43	愛媛	30	30,000
44	高知	7	7,000
45	福岡	22	22,000
46	佐賀	10	10,000
47	長崎	19	19,000
48	大分	15	15,000
49	熊本	29	29,000
50	宮崎	12	12,000
51	鹿児島	15	15,000
52	沖縄	8	8,000
53	その他	1	1,000
会費納入予算			¥1,500,000
会費納入額			¥1,338,000
納入都道府県市			55
納入者数			1,338
予算に対する納入率			89.2%

会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

〔令和2年12月1日現在〕

編集後記

東京大会について特集しています。コロナ禍の中ですが、皆様の力を結集し、発表していただきました。ご多用の中、原稿をお寄せくださった皆様に感謝申し上げます。（広報部 酒井 由江）